

査環境を作ることができた。閉所恐怖症の方では安定剤を使う予定が使わずに検査ができた。幼児でも入眠剤を使わずに検査できた例もあったが、映像を見て笑って動いてしまう例もあった。

20. 化膿性脊椎炎について、自験例を交えて 整形外科・リハビリテーション科

○濱本 秀一 江浪 秀明
井上 拓哉 村田 洋一
川島 邦彦 阪上 彰彦
松岡 孝志 田中 正道
青木 康彰

化膿性脊椎炎は一般的に一次感染巣から血行感染で脊椎へ波及した結果生じるとされ、50歳以上の中高齢者や、糖尿病等の基礎疾患を持つ患者に多い。適切な治療を早期に始めなければ治療に難渋することが多い。加療法は抗生剤での保存加療で改善が乏しい場合や初期の段階で保存加療では対応が困難と判断されれば手術加療も必要となる。当院で化膿性脊椎炎に対し手術を行った2013年から2018年12月までの29例の傾向をみると性別は男性が多く、初期症状は発熱や腰痛、下肢の痺れ、膀胱直腸障害等の神経症状が多く、治療開始からCRPが陰性化するまで数か月から半年を要し、死亡例も3例あった。血液培養や生検を行う前に抗生剤投与され原因菌を同定できないまま治療を行った例も多くあった。重症例では死亡へと繋がってしまう可能性がある病態であり、初期から適切な加療を行うために疑わしい症状があれば鑑別に挙げて頂きたい疾患である。

21. ガイドラインを活用した小児急性虫垂炎診 療

小児外科

○畠山 理 久松千恵子
野口 恵未

2017年小児救急医学会から小児急性虫垂炎診療ガイドラインが発表され、1) 一次評価にス

コアリングシステムを使用すること、2) 腹部超音波検査を画像選択の第一選択とすること、3) active observationは腹部CT検査施行率を低下させ、かつ診断の遅れの防止に有用であること、が述べられている。当院でも2017年までの虫垂炎診療を検証し、2018年1月からもれなくスコアリングできるよう、電子カルテ用のテンプレートを作成、スコアに応じてactive observationを採用することを当科の基本方針として定めた。今回、スコアリングシステムを本格的に導入後の当科の虫垂炎診療の現状について検討したので報告する。

22. 兵庫県の休日夜間急病センターでの小児への経口抗菌薬処方動向調査と適正使用に向けた介入

小児科

○明神 翔太 仲嶋 健吾
吉井 拓真 吉本 啓修
井上翔太郎 呉 東祐
内藤 由紀 半澤 愛
藤原 絢子 坂田 千恵
井上 翔太 中迫 正祥
黒川 大輔 神吉 直宙
上村 裕保 中川 卓
柄川 剛 高見 勇一
藤田 秀樹 五百蔵智明
久呉 真章

本郷 彰裕 (本郷小児科医院)

小児外来領域における抗菌薬処方動向調査や介入についての確立した方法はない。今回我々は神戸こども初期急病センター(以下神急)と姫路市休日・夜間急病センター(以下姫急)における経口抗菌薬処方動向調査を行った。調査年と受診者数はそれぞれ神急2014年4月~2018年3月、平均3万人/年で、姫急2014年9月~2018年3月、平均2万人/年であった。両施設ともに全受診者の10%前後に抗菌薬処方があり(神急7~11%、姫急10~16%)、経年的にいずれも6~7%程度の低下傾向を認めていた。